

第1回江東区都市計画マスタープラン2022推進会議【会議録】

開催日時	令和4年6月7日(火)午後2時00分		
開催場所	江東区文化センター6階 第5会議室		
出席者 (敬称略・順不同)	【委員】 <委員長> 志村 秀明 <委員> 村木 美貴、市古 太郎、川内 美彦、森本 章倫、柳井 重人 【区職員】 都市整備部長、都市計画課長、まちづくり推進課長、 地下鉄8号線事業推進課長、沿線まちづくり担当課長		
【議題】		【所管】	
「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」について		沿線まちづくり担当	
【議事概要】			
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	資料 2-1	地区まちづくり方針やエリアまちづくり方針と、沿線まちづくり構想との関係性や位置付けを明確にし、整理しておく必要があると考える。	地下鉄8号線沿線のまちづくりについては、まず、まちづくり構想の策定を進め、その後、地区まちづくり方針策定に着手していく予定である。 なお、沿線まちづくり構想は、地下鉄8号線延伸が与える効果やワークショップ等における地域の意向を反映し、策定することを想定している。
2	資料 2-1	駅舎はまちのシンボルになりうるので、新駅の基本設計実施主体に対して地域の意向を伝えていくことも大切である。	ワークショップ等により、まちの将来像を検討する中で挙げたご意見を適切なタイミングで関係機関に共有していくことを想定している。
3	資料 2-1	駅まち空間の形成については、令和3年9月に国土交通省の駅まちデザイン検討会から「駅まちデザインの手引き」が示されているため、参考になると思う。 ワークショップ等で区民の意見を聞くことは重要であるが、行政としても目指すべき新駅周辺のまちづくりのイメージを事前に持つておくことで、まちづくりのアイデアがより広がると思う。	「駅まちデザインの手引き」の内容を確認し、沿線まちづくり構想の策定に活かしていく。 また、ワークショップ等を通じて地域の意見を聞くことに加えて、行政の考えも示し、視野の広いまちづくりの検討を進めていく。
4	資料 2-1	今後の自動運転の進展を想定し、新駅周辺のまちづくりでは自動運転に対応した空	「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方」の内容

		<p>間設計が必要になると思う。</p> <p>令和4年3月に東京都から基本的な考え方として「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方」が示されているので、参考にすると良いと思う。</p>	<p>を確認し、沿線まちづくり構想の策定に活かしていく。</p>
5	資料 2-2	<p>ワークショップなどでは、区内居住者だけでなく、区内在勤者も参加し意見できる枠組みがあるとよい。</p>	<p>ワークショップ委員は、町会などの推薦枠と公募枠による構成を予定している。公募委員は、区内在住のみではなく、区内在勤、在学者も対象としている。</p>
6	資料 2-2	<p>これからワークショップの方法や内容の詳細を検討していくと思うが、区全体を見つつ、地域の個性も認識していくことが大事である。</p>	<p>沿線まちづくり構想策定の効果が、沿線地域に限定されることのないよう、区全体を意識してワークショップの進め方を検討していく。</p>
7	資料 2-3 参考 2-5	<p>区民アンケートにおいて「地域の拠点としてあるとよいと思う新たな機能を教えてください」という設問があるが、該当する地域に詳しくない方は回答しづらいと感じるため、回答しやすい工夫を検討すべきである。</p>	<p>ご意見を踏まえ、回答しやすい工夫を検討し、できる限り対応する。</p>
8	資料 2-3 参考 2-5	<p>区内居住者や区内在勤者、学生、観光などの来訪者等、回答者の属性ごとの分析が大事である。</p>	<p>アンケートを分析する際の参考とさせていただく。</p>